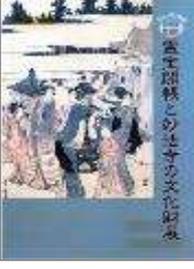
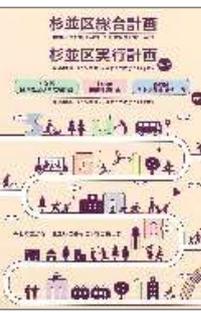


# 杉並区販売図書一覧

画像	書名・内容紹介	価格(税込)
	<p>『すぎ百科展』</p> <p>本書は、杉並区立郷土博物館が杉並区制60周年を記念して開催した「すぎ百科展」の図録です。区名の原点である「杉」をテーマに、杉並ゆかりの文士が小説中に描いた杉、江戸の建築用材をまかなう杉丸太でも特に著名な高井戸の杉丸太や、杉並区立の学校で杉を用いている校章とその由来などを解説しています。</p>	1,300円
	<p>『杉並文学館 一井伏鱒二と阿佐ヶ谷文士』</p> <p>本書は、杉並区立郷土博物館で春と秋の年2回開催している、準常設展「杉並文学館」の図録です。昭和期に阿佐ヶ谷、荻窪辺りに住んでいた井伏鱒二ら文士たちを中心に、杉並ゆかりの文学者を紹介しています。本書を読んで資料に興味を持たれた方は是非足をお運びください。</p>	700円
	<p>『江戸のごみ東京のごみ』</p> <p>江戸時代にすでに見事な資源循環型の社会が形成されていたことから始まり、東京市の明治から昭和に至る塵芥量の推移、時代別のごみ質・収集量と方法の変化、処分方法等について写真を用い分かりやすく解説しています。そして、あの杉並ごみ戦争の記録を掲げている。国会図書館ほか多くの文献から貴重な資料を生かした価値ある記録であります。</p>	400円
	<p>『井伏鱒二と「荻窪風土記」の世界』</p> <p>生涯の大半を過ごした荻窪の地を舞台に、氏と数々の文士や趣味人、釣人、多くの作品の主題となった市井の人々とのエピソードを綴った「荻窪風土記」は井伏文学の源といえましょう。特筆すべきは、太宰治との初対面のときの様子です。そして、太宰の写真は印象に残ります。</p>	1,000円

	<p>『大相撲杉並場所展』</p> <p>本書は、杉並区立郷土博物館が平成3年度に開催した「大相撲杉並場所展」の図録です。当時杉並にあった相撲部屋所属力士や杉並出身力士の幕内成績や得意手を一覧にして解説したり、杉並の少年相撲や大学相撲の紹介があったりと、相撲マニアも満足できる一冊となっています。</p>	<p>1,300円</p>
	<p>『狂言装束と杉並能楽堂』</p> <p>狂言は明治維新まで能とともに「猿楽」とよばれていた。という狂言の歴史の解説とともに狂言装束と狂言面の写真を載せている。「黒地馬具模様肩衣」の衣装と「黒式尉」の狂言面の写真は必見と思います。本書は、郷土博物館の企画展の図録です。</p>	<p>400円</p>
	<p>『はばたくプリズム 蝶の自然史展』</p> <p>本書は、杉並区立郷土博物館が平成8年度に開催した「はばたくプリズム 蝶の自然史展」の図録です。日本で見られる蝶の生態写真やスケッチを合計32枚の絵葉書にしてまとめました。標本と違ういきいきとした姿や蝶に関連したデザインを見ることだけでなく、実際に絵葉書として活用できるものとなっています。</p>	<p>600円</p>
	<p>『霊宝開帳と妙法寺の文化財展』</p> <p>「開帳は、寺社が日頃、厨子の中に安置するなどして秘蔵している神仏や霊宝を、一定の期間公開し、広く人々に拝観させる」とあります。葛飾北斎筆「魚師図」（白黒写真）や中国南宋時代の天目茶碗、二代広重による堀の内妙法寺等のカラー写真は見ごたえがあります。</p>	<p>1,000円</p>
	<p>『杉並区総合計画 杉並区実行計画（第2次）』</p> <p>令和3（2021）年に策定した「杉並区基本構想」が目指す概ね10年程度を展望したまちの姿「みどり豊かな住まいのみやこ」を実現するための具体的な道筋となる総合計画・実行計画等5計画（令和6（2024）年3月改定、第2次計画）を掲載しています。</p>	<p>2,300円</p>
	<p>『東京都市計画図(杉並区地域地区図)』</p> <p>本地図は令和7年3月現在の用途地域や都市計画施設などを1/10,000の地形図上に表したものです。発行は杉並区都市整備部市街地整備課です。</p>	<p>500円</p>